

三田市立幼稚園の今後のあり方の検討について

平成31年1月に策定した「三田市立幼稚園のあり方に関する基本方針（以下「基本方針」という。）」の考え方をもとに、令和4年2月に策定した「三田市立幼稚園再編計画（以下「再編計画」という。）」に沿って、公立幼稚園10園を認定こども園2園、幼稚園3園に再編統合し、併せて預かり保育の拡充等の取り組みを進めてきましたが、その後も保育ニーズの更なる増加や少子化の進行を背景として、再編計画を部分的に見直す必要が生じてきたことから、計画において当面幼稚園として存続することとしていた市立幼稚園3園のあり方について、課題整理と今後の方向性について検討を行うものです。

1 市立幼稚園再編計画の趣旨と取り組み内容について

（1）再編計画の趣旨

人間形成の基礎を培う幼児期において集団生活を通して遊びを中心とした多様な体験・交流を積み重ねていくことが重要で、基本方針では幼児期の教育・保育にとって望ましい集団規模を指し示している。この基本方針の考え方をもとに、再編計画は三田のこどもたちの未来のために「就学前の望ましい教育・保育環境」を実現していくための具体的な進め方や取り組み内容を定めたもの。

（2）望ましい集団規模の持続的な確保

基本方針により、学校教育法、幼稚園教育要領に照らした「幼児期において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具現化するために必要となる集団規模（望ましい集団規模）を設定し、その持続的な確保に努める。

- 園児のより良い成長に望ましい集団規模 **1学級の人数を同年齢で15～30人** と設定

（3）市立幼稚園の集約と教育・保育サービスの提供と拡充

- ① 東西の農村地域における既存の市立幼稚園を集約して公立の認定こども園2園を設置することで、農村地域における持続的な集団保育の確保と保育ニーズへ対応できるようにする。
 - 市立認定こども園「**みつば幼稚園**」開園（令和6年度）
 - 市立認定こども園「**ありまふじ幼稚園**」開園（令和7年度）
- ② 園児数の一定確保が見込まれると考える市街地又は市街地に近い市立幼稚園3園については当面の存続と教育・保育サービスの充実を図る。
 - 「松が丘幼稚園」において**3歳児保育を実施（令和5年度）**
 - 「三田幼稚園」「三輪幼稚園」「松が丘幼稚園」において**週5日の預かり保育を実施（令和7年度）**

2 市立3幼稚園の現状と課題について

(1) 現状

市立幼稚園再編の計画策定後も、市立幼稚園3園において当初の定員予定と比較して園児数の減少が更に進んでおり、基本方針で示された望ましい集団規模(15～30人)の持続的な確保が困難となっている。

＜市立幼稚園の園児数の推移＞ ※各年5/1時点

		R1	R2	R3	再編後の予定 定員(学級数)	R4	R5	R6	R7	R8
三田	3歳		25	22	25(1)	13	18	17	15	11
	4歳	45	34	32	60(2)	22	15	16	18	15
	5歳	57	43	35	70(2)	32	25	12	15	18
	合計	102	102	89	155(5)	67	58	45	48	44
三輪	3歳	-	24	14	25(1)	17	12	8	10	8
	4歳	12	25	21	60(2)	14	16	13	9	10
	5歳	23	16	25	70(2)	22	14	18	14	9
	合計	35	65	60	155(5)	53	42	39	33	27
松が丘	3歳	-	-	-	25(1)	-	10	7	4	10
	4歳	6	4	8	30(1)	6	4	8	7	4
	5歳	5	7	4	35(1)	10	6	4	9	8
	合計	11	11	12	90(3)	16	20	19	20	22

(2) 課題

①保育ニーズの増加に伴う幼稚園利用者の減

少子化の進行に加えて3～5歳のこどもの保育率（保育ニーズ）が年々増加傾向にあり、令和8年で6割を超えている。保育率の増加によって三輪幼稚園では園区内の82%、松が丘幼稚園では園区内の65%が他の保育園・認定こども園を利用している。

②教諭・保育士等の人材確保

教諭及び保育士の不足により、市立認定こども園では長時間の預かり保育に必要な人員の確保が難しくなっており、市立幼稚園でも長期休業期間中の預かり保育を希望する声が高まっているが、人員不足で体制が整わず実施困難な状況である。

③幼稚園施設の老朽化

幼稚園施設の老朽化（三輪幼稚園：S48 築、松が丘幼稚園：S62 築）に伴い、大規模改修が必要となっている。

3 今後の方向性の検討について

市立幼稚園再編計画策定から3年が経過し、検証を行うなかで、幼稚園利用者数の推移をもとに、「望ましい集団規模の確保」に向けた見直しと、3～5歳児の保育率（2号認定）が令和4年の46.8%から令和8年には61%と保育ニーズの増加傾向が進んでいることから、全施設の「認定こども園」への移行及び基本方針に基づいた今後の取り組みにつ

いて、令和7年12月に策定された『三田市未来への財政ロードマップ（第1次実行計画）』において、その考え方を示した。

＜取組 15＞ 三田保育所・三田幼稚園のあり方検討

今後の就学前人口の推計を踏まえ、各施設の受け入れ人数と適切な規模を見極めたうえで、近隣に所在する三田保育所及び三田幼稚園については将来のあり方を検討します。検討にあたっては、「認定こども園化」を視野に必要な施設要件を整理し、統合や分園の可能性について見定めていきます

＜取組 16＞ 松が丘幼稚園とありまふじ幼稚園の統合

園児数の減少が顕著な松が丘幼稚園について、これまで推進してきた幼稚園再編の考え方と同様に、望ましい教育環境を確保するため、ありまふじ幼稚園との統合に向けて保護者・地域・関係機関との調整を行い、令和11年度からの実施を目指します。

＜取組 17＞ 三輪幼稚園のあり方検討

三輪幼稚園については、今後の就学前人口の推計や三田駅周辺の就学前施設の状況、公立幼稚園の方向性等を踏まえ、民間事業者による「認定こども園化」を選択肢の一つとして、今後のあり方を検討します。

（１）意見交換会の開催

『三田市未来への財政ロードマップ（第1次実行計画）』では、今後10年の財政収支見通しと将来にわたって安定した財源の確保と持続可能な行政運営の基盤づくりを目的に実行計画が示されているが、市立幼稚園については、「三田保育所・三田幼稚園のあり方検討」「松が丘幼稚園とありまふじ幼稚園の統合」「三輪幼稚園のあり方検討」の3つの取り組みが問題提起されている。

このことを契機として、令和7年度から改めて市立幼稚園のあり方と今後の方向性の検討を目的として、三輪幼稚園及び松が丘幼稚園の保護者、地域との意見交換会を下記のとおり開催した。

＜意見交換会の開催結果＞

	松が丘幼稚園	参加		三輪幼稚園	参加
保護者	(R8) 6/ 2(火) 10:00～	2名	保護者	(R7) 12/15(月) 11:30～	4名
保護者	6/19(金) 10:00～	1名	保護者	(R8) 1/20(火) 10:00～	15名
地 域	6/26(金) 10:00～	1名	地 域	6/26(金) 18:00～	9名
地 域	6/27(土) 10:00～	※中止	地 域	6/27(土) 14:30～	※中止
地 域	6/29(月) 14:30～	2名	地 域	6/29(月) 10:00～	17名

※意見の内容・・・別紙参照

(2) 今後の進め方

	取組 16 「松が丘幼稚園とありまふじ幼稚園の統合」	取組 17 「三輪幼稚園のあり方検討」																									
検討結果	保護者並びに地域住民との意見交換会においては、ありまふじ幼稚園との統合について、特に大きな反対意見はなかった。	認定こども園への移行については、理解を得たものの、民間事業者への移行には反対意見が多数あり、理解は得られていない。																									
方向性	令和11年4月～ありまふじ幼稚園との統合決定に向けた周知及び準備を進める。	地域・保護者の理解が得られるまで、一定の期限を定めて協議する。																									
入園募集案内内容 ※9月広報及び募集要項(案)	<table><tr><th rowspan="2">園 名</th><th rowspan="2">募集人数</th><th colspan="3">(参考)今後の予定</th></tr><tr><th>R9</th><th>R10</th><th>R11</th></tr><tr><td>三田幼稚園</td><td>3歳児 25人 4歳児 19人 5歳児 14人</td><td>幼稚園として継続</td><td>幼稚園として継続</td><td>幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)</td></tr><tr><td>三輪幼稚園</td><td>3歳児 25人 4歳児 22人 5歳児 20人</td><td>幼稚園として継続</td><td>幼稚園として継続</td><td>幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)</td></tr><tr><td>松が丘幼稚園</td><td>3歳児 15人 4・5歳児混合学級 16人</td><td>幼稚園として継続</td><td>幼稚園として継続 ➡R11.3閉園</td><td>R11.4～ ありまふじ幼稚園に統合</td></tr></table>				園 名	募集人数	(参考)今後の予定			R9	R10	R11	三田幼稚園	3歳児 25人 4歳児 19人 5歳児 14人	幼稚園として継続	幼稚園として継続	幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)	三輪幼稚園	3歳児 25人 4歳児 22人 5歳児 20人	幼稚園として継続	幼稚園として継続	幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)	松が丘幼稚園	3歳児 15人 4・5歳児混合学級 16人	幼稚園として継続	幼稚園として継続 ➡R11.3閉園	R11.4～ ありまふじ幼稚園に統合
	園 名	募集人数	(参考)今後の予定																								
			R9	R10	R11																						
	三田幼稚園	3歳児 25人 4歳児 19人 5歳児 14人	幼稚園として継続	幼稚園として継続	幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)																						
	三輪幼稚園	3歳児 25人 4歳児 22人 5歳児 20人	幼稚園として継続	幼稚園として継続	幼稚園として継続 (認定こども園化に向け検討)																						
松が丘幼稚園	3歳児 15人 4・5歳児混合学級 16人	幼稚園として継続	幼稚園として継続 ➡R11.3閉園	R11.4～ ありまふじ幼稚園に統合																							
	※松が丘幼稚園は、令和11年4月からありまふじ幼稚園への統合を予定しているため、1号認定のお子さんについては、統合後は通園バス利用によるありまふじ幼稚園利用となります。																										
	※三輪幼稚園の令和9年4月入園児は卒園まで市立幼稚園での在園となります。																										
方針説明	R8.8.6 総合教育会議 R8.8 末 保護者・地域住民説明会 [対象] 意見交換会参加者及び保護者 [内容] 意見交換会を踏まえた今後の方向性とスケジュールの説明																										
	R8.9.1 令和9年度公立幼稚園入園募集案内（広報誌・HP・ちらし）周知 R8.9～ 三輪幼稚園の認定こども園化に向けた検討会（地域・保護者）																										
今後のスケジュール	R9・10年度 ・ありまふじ幼稚園との交流事業 ・送迎バスルート検討 ・送迎バス購入 R11.3末 松が丘幼稚園閉園式 R11.4～ ありまふじ幼稚園統合スタート		R8.9～継続協議 R9.8 方向性の決定																								

(3) 取組 15 「三田保育所・三田幼稚園のあり方検討」

既に協議と検討を進めている松が丘幼稚園と三輪幼稚園の方向性も踏まえながら、望ましい集団保育の確保や特別支援教育、セーフティネットとしての機能充実の考え方も含めて、次年度から保護者及び地域との協議を開始し、方向性の検討を進めていく。

松が丘幼稚園 意見交換会

日時	R8.6.2	R8.6.19	R8.6.26	R8.6.29
参加者	保護者 2 名	保護者 1 名	地域 1 名	地域 2 名

	意見の内容	市の考え方
統合	・松が丘幼稚園を認定こども園化してほしい。 ・園児と先生との関係が良ければ、少人数であっても問題はない。 ・三田・三輪・松が丘で統合の方がよい。 ・こどもにとって望ましい集団が大事であり、良い成長には統合もやむを得ない。 ・就園を期に仕事を始めたいが、幼稚園は長期休業中がネックである。	・認定こども園化には、職員体制の確保が大きな課題であり、統廃合による確保が必要。 ・こども成長にとって、集団による教育環境の提供が必要であると考えている。 ・距離的な点から、ありまふじ幼稚園への統合が望ましいと考える。
実施時期	・松が丘幼稚園の入園をストップするのか、入園してそのままスライドするのか。 ・次年度の松が丘幼稚園へ入園予定人数を早く知りたい。統合まで松が丘幼稚園に通いたいと思う反面、少人数なら迷っている。 ・統合は決まっていると考え、他の施設を検討している保護者もいる。	・令和 9 年度の入園募集の案内を今年 9 月に行う際には、今後のスケジュールが分かるように掲載していく。 ・10 月の入園受付後、入園予定人数が分かるため園からお答えすることは可能。
通園	・ありまふじ幼稚園への園児の送迎について、通園バスの運行はしてもらえるのか ・通園バスの運行ルートについて聞きたい ・ありまふじ幼稚園よりも、三田幼稚園や三輪幼稚園の方が通いやすい。	・松が丘幼稚園区内の 1 号認定(幼稚園利用)については、人数に関係なく通園バスを用意する。 ・松が丘幼稚園区において、利用者の希望をもとに安全な乗降ポイント等を決めていく。 ・距離的な面や、渋滞時間等の乗車時間を考慮すると、ありまふじ幼稚園の方が負担が少ない。
保護者の駐車場	・ありまふじ幼稚園に保護者の駐車場はあるのか。 ・ありまふじ幼稚園は小学校と同じ駐車場を利用しており台数に制限がある。駐車場から園までの距離があり、小さい子どもを連れていくのが大変。	・志手原小学校校舎裏に、幼稚園の保護者も利用できる駐車場がある。行事の際は小学校運動場の開放をお願いしている ・通園バスを用意するため、送迎負担はなくなる。 - また、急を要する送迎の際は、幼稚園園舎西側に通園バスが停車しており、そちらの駐車場にも数台停車するスペースがあり、利用可。
環境	・環境の変化やクラスの人数が多くなることで、こどもに影響が出ないか心配である ・統合を見越して初めからありまふじ幼稚園に通うか迷っている。 ・こどもはすぐに順応するので、不安なのは保護者の方だと思われる。 ・松が丘小学校と隣接しており、つながりを大事にしてくれていたのが残念。小学校との交流等はどうなっていくのか。	・できるだけ園児の環境変化に対する負担を軽減するために、統合前からありまふじ幼稚園との交流機会を多く設けていくとともに、統合時には松が丘幼稚園の職員がよりまふじ幼稚園で勤務するなどの対応を考えていく。 ・これまでのように頻繁に交流することはできないが、年間計画に松が丘小学校との交流等を 1 ～ 2 回は組み入れていく。
他	・松が丘幼稚園の園舎は、閉園後どうなるのか	・現在の旧幼稚園と同様、地域の方とより良い活用方法等を相談して決めていく。

三輪幼稚園 意見交換会

日 時	R7.12.15	R8.1.20	R8.6.26	R8.6.29
参加者	評価委員4名	保護者15名	地域 9名 (うち市議会議員 3 名)	地域 17名 (うち市議会議員 2 名)

	意見の内容	市の考え方
小学校・地域との連携	・公立でも認定こども園化はできる。公立だからこそできることがある。 ・三輪幼稚園は小学校との連携を長年進めているが、民間になると連携が無くなってしまわないか不安である。 ・三輪幼稚園のこれまでの取り組みをどのように継承していくのか、支援が必要なこどもの受け入れやインクルーシブ教育をどのように進めるのか、民営化すれば三輪に住んでいる支援の必要なお子さんは、必ず全員認定こども園に入れるのか。 ・地域でこどもたちが一緒に育ち、小学校へあがれるのか。 ・地域あつての三輪幼稚園である。センター的役割を担っている三輪幼稚園をぜひ残していただきたい。 ・公立として市と地域のかかわりの歴史があり、公立の方が地域との関係性が良いのではないか。 ・公立幼稚園は幼稚園教育要領に則ってしっかりこどもを育てている。保護者とかかわりも大切にしており、この地域の中でこどもを育てたいと思っている保護者の思いを大切にしたい。 ・公立主体で八景中校区の連携が進みモデルケースにできる地域なので、市が公立認定こども園で子育てしやすいまちづくりを進め、三輪幼稚園が選ばれることで市全体に広げていける	・公立のこれまでの取り組みは、公立でないと取り組めない内容なのか、民間では不可能なのかも検討していきたい。 ・ニュータウンの就学前施設はすべて民間であるが、幼小の連携は民間園でも実施されている実績がある。また、民間の力を借りる場合には、三輪幼稚園の取り組み継続などの条件付きで募集していきたい。 ・条例で支援を要するお子さんの受入義務を定めている。ただ、必要な受け入れ体制や設備投資ができない場合は他の園を紹介することもある。インクルーシブについても、地域・小学校との連携ができている民間園もある。 ・この地域に施設を存続させ、地域の子が集まり小学校にあがれる環境を整備するために認定こども園化を考え、存続させる方法として民間を検討したいという考えである。 ・民間も同様の取り組みをいただいていると認識している。条例においても、地域との連携に努めるルールを定めており、民間の力を借りる場合には、三輪幼稚園の取り組み継続などの条件付きで募集していきたい。
時期	・民間の認定こども園になる場合、現幼稚園の受け入れを止めるのか ・募集停止で下の子が入ってこないという状況はあり得るか	・どこかの時点で(園児の所属が)三輪幼稚園から民間園に変わる可能性があるが、入園を途中で差し止めることは考えていない

民 営 化	・公立の認定こども園の可能性がどのくらいあるのか。 ・公立で取り組み、結果、公立ではダメな理由が明確になり民間が歩み寄ってくれるなら納得いくのではないかな。 ・民営化で良い事業者が選ばれたとしても、事業者が変わる懸念もある。	・民営化が決まっているというわけではなく、一つの手段として意見を聞いている。認定こども園化を望む人の思いも聞きたい。民間でもいいから早く進めてほしいという人がどれくらいいるかなども聞いていきたい。
進 め 方	・R4 再編計画で三輪幼稚園の存続方針を出してから、存続に向けてどのような取り組みを行ってきたのか。 ・これまでの再編計画では何年もかけて丁寧な説明と意見聴取をされていた。今後のスケジュール感を聞きたい。 ・令和7年9月のロードマップは、総合教育会議を経由せずに発表されている。今後、総合教育会議で議論される予定はあるのか教育委員会定例会でも今日の意見を伝えていただけるのか ・9月にはあり方の方針を提示すると言われたが、早めに提示してほしい。3年後に民間へ移行は難しいと思われるが、その方向性についても伝えてほしい。 ・答えありきの説明ではなく、信頼関係を積み重ねていただきたい。ロードマップのスケジュールではなく、地域と一緒に三輪幼稚園を考えていく形で進めてほしい。 ・公立での可能性も探りながら、民間にどんな条件をつけていくのかなど、細かく意見交流を積み重ねてほしい。 ・幼稚園再編計画に基づくことが大事である。運び方が乱暴な印象である。 ・意見交換の場が少なく、不安にならないようお願いしたい	・存続の取り組みとして、預かり保育の充実を進めてきたが、長期休業中の預かりは不十分だった。 ・ロードマップでは最短のスケジュールを示している。こどもの適正な集団規模と環境整備、保護者の保育ニーズへの対応を含め、意見をいただき議論する中でスケジュールが変わることはあると考えている。 ・総合教育会議は、市長主催でまちづくりの教育部分について話し合う会議でもあり、前回の幼稚園再編の際も議論してきた。今回も同様に考えている。教育委員会へも伝える。 ・集団規模の確保は一日でも早く整えたい。とりあえずは最短時期を示しているが、あくまでも検討結果に基づいて取り組みを進めるものである。 ・今日がスタートだと思っている。一方的に進めるつもりはない。皆さんから意見をいただき、皆さんが納得の上で進めていきたいと考えている。 ・これから意見交換会を続け、内容が見える化していく。仮に民間に公募する場合のイメージとして、市が公募し選定委員会を設け、地域との交流・小学校との連携・特別支援教育についてどう考えているか等、選定基準項目を定めていこうと考える。三輪幼稚園の良さや伝統が引き継がれるような努力はしていきたい。 ・誰が見ても分かるものが周知されていないとの指摘と受け止める。総合教育会議の場において、次に進むべき道が見える形で話をしていく必要がある。 ・関係する方への情報が届きにくかったかもしれない。丁寧に話し合いをしていく。

その他の意見	【認定こども園の形態について】 ・公立の認定こども園化となった場合は幼稚園型で3・4・5歳が対象の施設ということか。 ・三輪幼稚園での預かり保育時間を延ばすことは可能か。	・0～2歳の小規模保育施設のお子さんが3歳からの預け先を探さなくてはならないため、連携園となる3～5歳の認定こども園化が必要である。 ・長期休業中の預かりも含め、職員確保が課題となっている。
	【園児数に関すること】 ・地域のこどもの人数は決まっているのに、認定こども園化でなぜ増えると思込めるのか、統合でないのであれば、増えるという実感がない。 ・園児数の減少は就労形態だけが原因なく、英語教育等の習い事の魅力で私立認定こども園を選んでいる保護者もいる。 ・就労形態や駅前開発でどの程度子育て世帯の増加が見込まれるのか情報共有してほしい	・三輪地域には0～2歳児の小規模保育施設が2園あり、その受け皿としての認定こども園となるため、園児数は増えると思込んでいる。 ・その点を重視される保護者がいることは認識しているが、公立は教育要領に則って保育をしている。民間園では幅広いことができると思うが、メリット・デメリットもある。 ・約540戸の販売と聞いているが、マンションも高騰しており、子育て世帯がどのくらい見込まれるか把握できないが数字で示せるようにしたい
	【施設・駐車場について】 ・三輪幼稚園の改修費用はいくらぐらいか。 ・現状のままで建物は維持できるのか。 ・検討期間中に改修してもらえるのか。 ・園庭の一部を活用して来園者用の駐車場を広げられないか。 ・お金のことを切り離して、こどもたちを第一に考えていきたい。施設を修繕してから民間に渡す方法もある。 ・三輪幼稚園には駐車場がない。幼稚園創立から地域の協力や提供があったのなら、民間では引き継げないのではないか。駐車場問題が解決できるのか心配する。	・現在は改修工事の予定を止めているが、R7の三田幼稚園の改修費用が約3億円で、R8の2期工事として数千万円かかると思込んでいる。 ・約50年経過しているが、これまでに耐震改修は行っており、運営上は問題ない。 ・大規模な改修の予定はないが、必要に応じてその都度改修していく。 ・幼稚園奥の園庭(民家側)、園舎前の園庭については、国道からの接道が悪く、(スペースや安全面で)問題が多い。